

科目名 Subject Name	Speaking Skills I A				
科目名(英) Same as Above	Speaking Skills I A				
単位数 Credits	4単位	時間数	60時間	担当者	Keith Kelly, Andy Highcock, Scott Newby, Robert Jonathan Sumner
実施年度 Year	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年 Class	Global Communication (Global Business Course) 1				
授業概要 Subject Description	1. Students can improve their English proficiency. 2. Students can gain more confidence in using English. 3. Students can gain English skills for living abroad, work and proficiency tests.				
授業形態 Class Format	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態: ○ その他: △
学習目標 (到達目標) Specific Targets in Focus	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○		○	
テキスト・教材 参考図書 Textbooks and References	Speak Out Elementary A				
授業計画 Class Schedules and Contents	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	Placement Test			none
	2	Level Check 2			none
	3	Level Check 3			none
	4	Get to know your teacher			none
	5	1.1 Nice to meet you			Preview lesson materials
	6	1.2 Travel light			Preview lesson materials and review previous lesson
	7	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	8	1.3 Can I have a coffee?			Preview lesson materials and review previous lesson
	9	1.4 Faulty Towers (needs DVD player)			Preview lesson materials and review previous lesson
	10	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	11	1.5 Look back			Preview lesson materials and review previous lesson
	12	Teacher's lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	13	2.1 Join us!			Preview lesson materials and review previous lesson
	14	2.2 High flyers			Preview lesson materials and review previous lesson
	15	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	16	2.3 What time does it start?			Preview lesson materials and review previous lesson
	17	Bus Hike (No class)			Preview lesson materials and review previous lesson
	18	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	19	2.5 Look Back			Preview lesson materials and review previous lesson
	20	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	21	3.1 Big Happy families			Preview lesson materials and review previous lesson
	22	3.2 Real Friends?			Preview lesson materials and review previous lesson
	23	Teacher's Lesson			Preview lesson materials and review previous lesson
	24	3.3 Are you free tonight?			Preview lesson materials and review previous lesson
	25	3.4 Diwali Celebrations (needs DVD player)			Preview lesson materials and review previous lesson

麻生外語観光＆ブライダル専門学校 シラバス

	26	3.5 Look Back	Preview lesson materials and review previous lesson				
	27	Teacher's lesson	Preview lesson materials and review previous lesson				
	28	Teacher's lesson	Preview lesson materials and review previous lesson				
	29	Test Prep	Review previous material				
	30	Test prep	Review previous material				
評価方法 Assessment Method	Students evaluation: (1) Test – 50% (2) In-class Tasks – 50% The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験 Semester End Exam	○	○		○		50%
	小テスト In-class Tasks	○	○		○		50%
履修上の注意 Remarks	Students will not receive a grade if they miss more than 10 classes.						

科目名	MOS演習 I A				
科目名(英)	MOS I A (Excel)				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	宮原 裕花
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	コンピューター会社にてPCインストラクターとして勤務
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科(グローバルビジネスコース)1年				
授業概要	タイピング練習にて、正確で速いタイピング技術を身につける。 Excelの基本操作を学び、ビジネスで活用できる表やグラフ作成などを練習する。 また、MOS Excel対策問題の演習を通じて、応用力を養い、MOSの合格を目指す。				
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
			○		
	目標				
	正確で速いタイピングができる。				
	○	○			
	ワークシートやブックの作成と管理ができる。				
	○	○			
	セルやセル範囲のデータの管理、テーブルの作成ができる。				
	○	○			
	数式や関数を使用した演算の実行ができる。				
	○	○			
	グラフやオブジェクトの作成ができる。				
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 MOS Excel 2019 対策テキスト&問題集				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(1)			
	2	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(2)			
	3	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(3)			
	4	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(4)			
	5	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(5)			
	6	タイピング練習、ワークシートやブックの作成と管理(6)			
	7	タイピング練習、セルやセル範囲の作成(1)			
	8	タイピング練習、セルやセル範囲の作成(2)			
	9	タイピング練習、セルやセル範囲の作成(3)			
	10	タイピング練習、セルやセル範囲の作成(4)			
	11	タイピング練習、テーブルの作成(1)			
	12	タイピング練習、テーブルの作成(2)			
	13	タイピング練習、テーブルの作成(3)			
	14	タイピング練習、テーブルの作成(4)			
	15	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(1)			
	16	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(2)			
	17	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(3)			
	18	タイピング練習、数式や関数を使用した演算の実行(4)			
	19	タイピング練習、グラフやオブジェクトの作成(1)			
	20	タイピング練習、グラフやオブジェクトの作成(2)			
	21	タイピング練習、グラフやオブジェクトの作成(3)			
	22	タイピング練習、グラフやオブジェクトの作成(4)			
	23	模擬問題(1)			
	24	模擬問題(2)			
	25	模擬問題(3)			

	26	模擬問題(4)					
	27	模擬問題(5)					
	28	模擬問題(6)					
	29	模擬問題(7)					
	30	模擬問題(8)					
評価方法	(1)タイピング速度の記録を取る。(2)テキスト、各章ごとの確認テストを行う。(3)検定試験(MOS)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	検定試験(MOS)	○	◎	○			50%
	確認テスト	○	◎	○			20%
	タイピング技能			◎			30%
履修上の注意	PC教室の整理・整頓に留意すること。						

科目名	TOEIC対策 I A				
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I A				
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	和田 菜穂
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベル分けテスト			
	2	TOEIC学習目標と出題形式、解法のテクニック、Part5対策、ボキャブラリー、WORD FORM(品詞、派生語)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	3	Part5対策、ボキャブラリー、前置詞、リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	4	Part5対策 ボキャブラリー 接続詞 前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	5	Part5対策 ボキャブラリー 動詞、助動詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	6	Part5対策 ボキャブラリー 代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	7	Part5対策ボキャブラリー形容詞、副詞リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	8	Part5対策 ボキャブラリー 冠詞、序数			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	9	Part5対策 ボキャブラリー 比較級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	10	Part5対策 ボキャブラリー 最上級			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	11	Part5対策 ボキャブラリー 形容詞、副詞、比較級、最上級 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	12	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	13	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	14	Part5対策 ボキャブラリー 不定詞、動名詞、分詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	15	Part5対策 ボキャブラリー 関係代名詞 リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	16	Part5対策 ボキャブラリー 関係副詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	17	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	18	Part7対策 ボキャブラリー 文法(仮定法)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	19	Part7対策 ボキャブラリー 文法(話法) リスニング対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	20	Reading part5対策 ボキャブラリー			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	21	Reading Part5対策 ボキャブラリー リスニングPart1.2対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	22	Reading対策 ボキャブラリー Skimming Scanning			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。
	23	定期試験			

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	定期試験	◎	○			60%
	TOEIC(IP)	◎	○			30%
	単語テスト	◎	○		○	10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	英語検定2級対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I A				
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)					
事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト			
	2	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検ライティング、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検模擬試験 問題1 筆記			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答 & 解説大問1			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検模擬試験 問題1 解答 & 解説大問1、2			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検模擬試験 問題1 解答 & 解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	英検模擬試験 問題1 解答 & 解説大問3			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	英検模擬試験 問題1 モデルライティング練習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	英検本試験解説①			
	21	英検本試験解説②			
	22	試験対策			
	23	試験			

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	定期試験	◎	○			60%
	小テスト	◎	○			40%
履修上の注意						
	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	英語検定準2級対策 I A				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I A				
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	中山 久豪
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 ホテル・リゾート科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格を目指す。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)					
電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	プレイスメントテスト			
	2	オリエンテーション			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	英検模擬試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	21	英検本試験解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	後期まとめ			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	授業内正試験			予習、復習を行って授業に臨むこと。

科目名	TOEIC対策 I B					
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I B					
単位数	3単位		時間数	45時間	担当者	和田 菜穂
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年					
授業概要	国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるTOEIC700点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。					
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・次回ミーティングが、いつ、どこで行われるかについての説明を理解できる。
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・入国管理官に、滞在場所、期間、旅の目的を英語で聞かれた時、質問が理解できる。
テキスト・教材 参考図書	新TOEICテスト書き込みドリルボキャブラリー編、リスニング編、Basic Reading Strategies for the TOEIC TEST 他					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	2	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	3	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	4	Reading Part5対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	5	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	6	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	7	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	8	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	9	Reading Part6対策 リスニングPart1.2対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	10	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	11	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	12	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	13	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	14	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	15	Reading Part7対策 リスニングPart3対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	16	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	17	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	18	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	19	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	20	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	21	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	22	Reading Part7対策 リスニングPart4対策				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。
	23	定期試験対策 学期総括				前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを学期末に実施する。 評価方法は700点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを20回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	定期試験	◎	○			60%
	TOEIC(IP)	◎	○			30%
	単語テスト	◎	○		○	10%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	英語検定2級対策 I B				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I B				
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)					
事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト公式問題集				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			
	2	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	オリエンテーション、英作文、音読、ディクテーション			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	英検リーディング(短文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	英検リーディング(長文の語句空所補充)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	英検リーディング(長文の内容一致選択)、リスニング			
	23	前期のまとめ			

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	○			60%
	小テスト	◎	○			40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	英語検定準2級対策 I B				
科目名(英)	EIKEN Test Strategies I B				
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	中山 久豪
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科 エアポート科(1年課程) グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
目標					
説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)					
社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)					
電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)					
与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)					
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション			
	2	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	3	英検対策 大問1(短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	4	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	5	英検対策 大問2(会話文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	6	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	7	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	8	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	9	英検対策 大問4(長文の内容一致選択)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	10	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	11	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	12	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	13	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	14	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	15	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	16	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	17	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	18	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	19	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	20	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	21	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	TOEIC Part5、リスニング(Part2,3,4.)			予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	まとめ			予習、復習を行って授業に臨むこと。

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)小テストを実施する。 以上を下記の観点、割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	評価割合
	定期試験	◎	○			60%
	小テスト	◎	○			40%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、単位を与えない。					

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	高校英文法をひとつひとつわかりやすく 基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	品詞と文型 第5文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	5文型を使って自己紹介文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	時制④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	時制⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	助動詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	代名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	代名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	代名詞③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	前置詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)授業内で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村 賢一
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	英語講師22年
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	なぜ5文型の把握が大切なのか①英語が複雑になる3大理由①修飾語			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	3つの構成単位:語・句・節			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	句と節の対処法:句・節の「範囲」を把握し、()でくくる			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	なぜ5文型の把握が大切なのか?②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	句・節の「役割」を特定する			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	なぜ5文型の把握が大切なのか③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	読解問題①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	読解問題②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	準動詞の概要:To V とing			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	不定詞の名詞的用法:問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	不定詞の形容詞的用法:問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	不定詞の副詞的用法:問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	ingの用法①動名詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	ingの用法①動名詞の文法問題と読解			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	ingの用法②分詞の概要説明			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	関係代名詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	関係副詞の概要説明	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	関係代名詞と関係副詞の使い分け・文法問題・読解	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	まとめ①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	まとめ②	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	レベルチェックテスト			
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	第三文型、第一文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	第四文型、第五文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	第二文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	第三文型、第一文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	第四文型、第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	その1 時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	その1 時制 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	その2 完了形 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	復習 その1 時制・その2 完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	本番前復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	その3 助動詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	復習 その3 助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	その4 受動態 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	復習 その4 受動態			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	復習 その5 不定詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	復習 その5 不定詞 つづき			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	その6 動名詞 つづき 復習 その6 動名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	復習 その6 動名詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	問題演習 その1	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	問題演習 その2	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1) 定期試験（筆記）を実施する。 (2) 学内でTOEIC（IP）検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC（IPテスト）	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English I A				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	未定
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割			
	2	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と文型 第2文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	品詞と文型 第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	品詞と文型 第1文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	品詞と文型 第1文型、第4文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	品詞と文型 第4文型と第3文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	品詞と文型 第5文型①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	品詞と文型 第5文型②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	5文型を使って自己紹介文30文作成			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	時制①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	時制②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	時制③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	助動詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	助動詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	形容詞・副詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	形容詞・副詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	形容詞・副詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	名詞・冠詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	名詞・冠詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	代名詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	代名詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	前置詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	接続詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	接続詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	不定詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	不定詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	動名詞①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	動名詞②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	(1) 定期試験（筆記）を実施する。 (2) 学内でTOEIC（IP）検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを6回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC（IPテスト）	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I A				
科目名(英)	General English IA				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山 久豪
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	塾講師、英語講師
対象学科・学年	エアライン科 グローバルコミュニケーション科 1年				
授業概要	英語を単語でなく文として理解するためには、品詞と五文型についての知識習得が必要である。英文を作るルール(英文法)の基本となる品詞と五文型を学び、ルールの理解を深める。また、名詞・動詞についての知識を深め、より正確に自身の言いたいことを表現できるようになることを目標とする。				
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	総合英語プリント				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	プレイスメントテスト 振り返り			
	2	オリエンテーション、品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	3	品詞と五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	4	第一文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	5	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	6	第二文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	7	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	8	第三文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	9	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	10	第四文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	11	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	12	第五文型			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	13	五文型まとめ			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	14	五文型まとめ			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	15	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	16	名詞と代名詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	17	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	18	一般動詞とbe動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	19	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	20	時制			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	21	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	22	三人称単数現在の動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	23	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	24	完了形			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと
	25	助動詞			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと

	26	助動詞	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	態	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	自己紹介文 作成	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) TOEIC (IP) 検定試験を4月、8月に実施する。 評価方法は700点以上取得で100%、650点以上で95%、550点以上で90%とする。それ以下も取得点数により評価に反映する。 (3) 小テストを実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下) とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IP) 検定試験	◎	○				20%
	小テスト	◎	○		○		20%
履修上の注意	英単語の品詞がわかる辞書にアクセスできるようにすること。 また、出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	韓国語A						
科目名(英)	Korean A						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	盧 愛蓮
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科(グローバルビジネスコース)1年						
授業概要	韓国語の基礎、特にハングルの読み方と発音を正確に学習する。 韓国語は文字が読めないと学習できないため、この時期にしっかりと正確な読み方と発音を習得し、今後の韓国語学習につなげる。						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ハングルの仕組みを理解し、読めるようになる。	
	○					発音変化の仕組みを理解し、的確に読めるようになる。	
	○		○			挨拶言葉を覚え、簡単な挨拶ができるようになる。	
	○	○	○			基礎的な文法を学習し、文章が作れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	・自作資料 ・基礎から学ぶ韓国語講座 初級						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ハングルを読もう! ① 挨拶を覚えよう! ①					
	2	ハングルを読もう! ② 挨拶を覚えよう! ②				習った部分を復習する。	
	3	ハングルを読もう! ③ 挨拶を覚えよう! ③				習った部分を復習する。	
	4	ハングルを読もう! ④ 挨拶の小テスト				授業前: 習った挨拶をテストに備えて覚える。 授業後: 習った部分を復習する。	
	5	第1課 あいさつと自己紹介				習った部分を復習する。	
	6	第1課 あいさつと自己紹介				習った部分を復習する。	
	7	第2課 「～ですか」				習った部分を復習する。	
	8	第2課 「～ですか」				習った部分を復習する。	
	9	第3課 「～ではありません」＜否定形＞				習った部分を復習する。	
	10	第3課 続き 1課から3課までの復習				習った部分を復習する。	
	11	中間テスト				授業前: 1～3課をテストに備えて覚える。	
	12	第4課 「あります／ありません」				習った部分を復習する。	
	13	第4課 「あります／ありません」				習った部分を復習する。	
	14	第5課 「します／しますか」(フォーマル体)				習った部分を復習する。	
15	第5課 「します／しますか」(フォーマル体) + 前期の総復習				習った部分を復習する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト・中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	商業簿記A						
科目名(英)	Book Keeping A						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	池前 むつみ		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて経理担当として勤務		
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科(グローバルビジネスコース)1年						
授業概要	ビジネスパーソンに必須の基本知識である、日商簿記検定3級の資格取得が最終目標です。 お金の流れ＝簿記であるように、日々の取引の中でうまれたお金はどのように管理しているのか、また、 管理していくのかを学びます。						
授業形態	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				日々の取引の仕訳をすることができる。	
		○				総勘定元帳へ転記をすることができる。	
		○				取引に見合った帳簿を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	TAC出版日商簿記3級よくわかる簿記シリーズ合格テキスト・合格トレーニング、究極の仕訳集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業説明、日商簿記検定について、簿記の基礎					
	2	日常の手続き、仕訳の手順					
	3	仕訳練習					
	4	仕訳復習、仕訳テスト					
	5	掛け取引、手付金・内金					
	6	商品券、返品、諸掛り					
	7	保管費、売掛金元帳・買掛金元帳				電卓を持参すること。	
	8	商品有高帳				電卓を持参すること。	
	9	現金・預金					
	10	小口現金				電卓を持参すること。	
	11	クレジット売掛金、手形取引				電卓を持参すること。	
	12	電子記録債権・債務、さまざまな帳簿の関係					
	13	仕訳帳・総勘定元帳				電卓を持参すること。	
	14	補助簿				電卓を持参すること。	
	15	総復習					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 授業の中で確認テストを実施する。 (3) 課題の提出状況による。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				10%
	授業姿勢				◎		10%
履修上の注意	商業用電卓を使用します。※スマートフォン等での代用は一切認めません。 仕訳集を活用し、仕訳をマスターしましょう。						

科目名	SPI A									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		瀧口／中山／合力／松藤	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科 1年									
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標				
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える				
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる				
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる				
		○				SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	■第1回レベルチェックテスト								
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	4	四則逆算、分割払い、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	5	四則逆算、割合、分割払い					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	6	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	7	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	8	■第2回レベルチェックテスト								
	9	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	10	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	11	四則逆算、確率					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	12	四則逆算、確率、集合					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	14	四則逆算、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	15	まとめ								
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合で評価をする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			◎		○		80%		
	レベルチェックテスト(2回の平均)			◎		○		10%		
	出席状況					○		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	SPI B										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		瀧口／中山／合力／松藤		
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科 1年										
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。										
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える					
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる					
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる					
		○				SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる					
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	■第1回レベルチェックテスト									
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	4	四則逆算、分割払い、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	5	四則逆算、割合、分割払い					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	6	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	7	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	8	■第2回レベルチェックテスト									
	9	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	10	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	11	四則逆算、確率					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	12	四則逆算、確率、集合					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	14	四則逆算、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)				
	15	まとめ									
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合で評価をする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験			◎		○		80%			
	レベルチェックテスト(2回の平均)			◎		○		10%			
	出席状況					○		10%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	SPI C									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		瀧口／中山／合力／松藤	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科 1年									
授業概要	現在、航空業界をはじめ多くの企業でテストセンターやWEBテスト、ペーパーテスト等の適性検査が実施されており、制限時間内に正確な解答を導き出す力が求められているため、この授業ではSPI(非言語分野)の頻出テーマを取り上げ、その解法を学ぶ。									
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を学び、覚える				
		○				各問題に対する基本的な解き方を理解した上で、応用問題にも活用できる				
		○				四則演算(玉手箱)問題を制限時間内に目標数解答することができる				
		○				SPI非言語分野頻出テーマの基本的な解き方を説明することができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	■第1回レベルチェックテスト								
	2	科目概要説明、四則逆算、料金計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	3	四則逆算、金銭の貸借、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	4	四則逆算、分割払い、損益計算					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	5	四則逆算、割合、分割払い					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	6	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	7	四則逆算、速度					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	8	■第2回レベルチェックテスト								
	9	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	10	四則逆算、組み合わせ					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	11	四則逆算、確率					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	12	四則逆算、確率、集合					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	13	四則逆算、集合、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	14	四則逆算、図表の読み取り					テキストの該当部分の復習(0.5時間)			
	15	まとめ								
評価方法	(1)定期試験 (2)レベルチェックテスト (3)出席状況 以上を、以下の観点・割合で評価をする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			◎		○		80%		
	レベルチェックテスト(2回の平均)			◎		○		10%		
	出席状況					○		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	若松 昌枝
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科(グローバルビジネスコース)1年						
授業概要	自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーションなど、社会で生き抜くうえでの“人間力”の根本は、自分の環境における感謝の気持ちにある。日常生活の中で「与えられることが普通」と思ってしまう“他者依存”から脱却し、周囲との協働を保ちつつ使命感を持って行動できる自立心を目指す。						
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自ら考える、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。	
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシック I 感謝心と思いやりの教育(学生用テキスト)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				振り返りレポートの作成	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				振り返りレポートの作成	
	3	よりより人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				振り返りレポートの作成	
	4	マナーの本質 I				振り返りレポートの作成	
	5	マナーの本質 II				振り返りレポートの作成	
	6	グローバルシティズンとしての日常				振り返りレポートの作成	
	7	グローバルシティズンとしての目標				振り返りレポートの作成	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて				振り返りレポートの作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポートを8回実施する (2)最後の授業で発表する。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表	○			◎		100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	キャリアデザインⅠA						
科目名(英)	Career DesignⅠA						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	若松 昌枝
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	グローバルコミュニケーション科(グローバルビジネスコース)1年						
授業概要	麻生塾の規則を知る。学科の特性を知る。団体行動の際、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション力などを養う。クラス運営に必要な役割を理解し、役割を担う。必要に応じて話し合いをし、自治を行う。 就職に必要な準備をする。						
授業形態	講義:△		演習:○	実習:	実技:	※主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		自身で目標を設定し、達成に向けた行動を心がけることができる。	
	○			○		就職活動準備に向けて、自ら情報集を行い、希望職種についての理解を深める。	
				○		提出期限を遵守することができる。	
				○		クラスで方向性を共有し、協調性を深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	学則について～ルールとマナーとは					
	2	目標設定・クラス内での自身の役割について				目標を考えてくること	
	3	英語学習の重要性、E-LearningなどITを使った学習と就職活動					
	4	就職環境を知ろう①(業界の動向)				希望職種の試験スケジュールを調べてくること。	
	5	就職環境を知ろう②(業界の求める人材とは?)				希望職種の試験スケジュールを調べてくること。	
	6	自己分析とキャリアプランニング①(自分史の作成)				ターニングポイントを列挙すること。	
	7	自己分析とキャリアプランニング②(10年後の自分について考える)				将来の姿を具体的に箇条書きにすること。	
	8	前期の振り返り・夏休みの過ごし方について					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)前期中に1回作文を提出する。(2)その他提出物の期限を遵守する。(3)自分の考えを積極的に発言する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文提出状況	○	○		○		50%
	授業内での発言	○	○		○		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						